
おにごっこ

きまぐれ屋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おにじっこ

【著者】

Z2299D

【作者名】

きまぐれ屋

【あらすじ】

いつも無愛想で無関心なあなた。きょうだけは、あたしの我が儘を聞いて。

(前書き)

「ひつぢやう」作者はせんせーが好きひじこです

あなたがそうなら、
あたしだって、手があるんだから。

「鬼」つい、しよう！けんちゃん、鬼ね

「何いきなりバカ言つてんだよ。あと、けんちゃん言つな」
愛しいかれは、あたしの予想を裏切らない表情を見せた。
眉間にしわを寄せた顔は、それでも綺麗なままで

「強制なのっ！はじめっ！」

不機嫌になつた彼の文句を背中に受け、あたしは満開の紅葉の中に走り抜けた。

いつだつてあの人は、あたしのことを気にかけてくれない。

だけど今日は、あたしだって手があるんだから

バカな考え方だけど、こうして一人で走り去つたあたしを、少しでも気にかけて追いかけてくれたらそれだけで十分。

追いかけてくれなかつたら、つき合つてもキスどころか手も繋がな

かつた、いの関係にやるなりじみ。

かれは無愛想だから

キスはしようがないけど、愛されてる証拠が欲しいよ

どれくらい進んだのか、そいつな距離を走ったのだけは、額に張り付く汗で分かった。

秋風が気持ちいいくらい前髪を掻き上げてくれる。

(せんせい、追つてきてる・・・?)

けんぢやんは、あたしの中學からの家庭教師だった。

すきつて言われた時は、脳細胞がどれかそういうくらい嬉しかったのに

(怖くて、振り向けない)

だって、結果は分かってるもの

「せやか」

引き寄せられて、抱きしめられて。

けんちゃんの綺麗な顔が目の前に映し出された時には、思わず顔を
背けた。

さやか、と自分の名前を口にされてそっと顔を上げると何か柔らかな
感触に、再び目を瞑った

ー・・けんちゃん

その瞬間、あたしのちっぽけな頭が理解したのは、
かれの暖かい唇があたしの口を塞いでいたこと

(唇は、あつたかい・・・)

「・・・ん?・・・」

口を開つていきなり入ってきたものが、あたしの脳内を丹念に凌撲
し始める

(なに、これ)

奥歯をくるつと這に回るやれに、ぞくぞくと背筋が張つてしまつ

「・・・け、ん」

息する間もあたえず『えられる快感に、あたしはすでに意識が半分飛びそうだ

「ーっん、けん、『・・・っ』

ちゅっ、と顎を立てようやく離れた唇
一人でとまどつてしまつて顔を赤く染めた

「けんちや

「俺は、鬼」っになんかよりお前と一人で居たいよ。ま、半間賃つ
てことだ。」

走つてほてつた唇に、再びかれの唇の感触。

離れては、ついばむように何でも角度を変えて重なり合つた。

「愛してるよ」

秋の夕暮れなのか、赤く染まつたお互いの頬はきつとホントウの印。

(後書き)

気分屋な作者に愛のこめんてを一笑

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2299d/>

おにごっこ

2010年11月11日08時27分発行